

## 生物化学兵器の最大生産国は中国！

### 1. 要約

1年ほど前のこと、サブラヒという人が [Web サイト](#) で表題の主張をされるのを目にしました。

大胆なことをおっしゃるものとびっくりして仔細に読んだのですが、私にはどうも納得がいかず、2点問題提起しました。

1つ目は、**国際輸出管理レジームと査察について、サブラヒ氏はよく理解していないのではないか**ということ。2つ目は、サブラヒ氏が具体的に挙げた**生物兵器研究機関情報が、名称からして「本物らしくない」ということ**でした。

その後、御見解が Web に掲載されましたが、上記第1点へは特段の異論もなかったようなので、氏もこの点は納得されたのだと思います。

2番目の問題については、情報の出所が新宮領篁という元 CISTEC 主任研究員の 2003 年 3月号の『CISTEC ジャーナル』記事だと明かされました。古い記事ではありますが、かかる重大な告発に関するものとあれば、みなさんも御関心があるかと思います。またよく読むと、サブラヒ氏主張には新宮領氏記事の濃い影響が見られます。

そこで本稿は新宮領氏記事と（それを踏まえての）サブラヒ氏主張への評価をしてみたいと思います。

### 2. 新宮領記事の影響

その前に、サブラヒ氏の記述と新宮領氏の対応関係をみておきましょう。

サブラヒ氏	新宮領氏
<p>生物兵器、化学兵器は、核兵器やミサイル関係と並んで大量破壊兵器安全保障輸出規制の双璧をなす厳しい管理対象である。国際レジームとしてはオーストラリア・グループが真剣に取り組んでいるところであるが、中国やロシアは大国でありながらその国際的な規制の枠組みへの参加を避けている。(査察を拒否)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CWC (化学兵器禁止条約) の申立査察 (他の締約国からの要求で任意の施設を対象にする査察) を過度に介入的として、中国らの発展途上国が抵抗した旨が紹介されている。(3月号9頁)</li> <li>• BWC (生物兵器禁止条約) 調印に至る中国の後ろ向きな姿勢が述べられている。(3月号11~12頁)</li> </ul>

米満註；中国は 1984 年に BWC、1993 年に CWC に加盟。AG には未加盟。

但し AG には査察規定なし。(あるわけがない。AG は輸出を規制する協定なのだから) 中国は AG には未加盟だが、AG に類似の (真似た?) 規制リストで輸出管理を行っている。

サブラヒ氏	新宮領氏
<p>中国にある生物兵器研究機関：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・延安細菌学工場（陝西省 延安） エアロゾル型細菌爆弾など4種類</li> <li>・大連生物製品工場（大連） 破傷風、コレラワクチン、狂犬病ウィルスなど</li> <li>・長春生物製品工場（長春） 種々の生物兵器材料の培養など</li> <li>・武漢生物製品工場（武漢）</li> <li>・重慶生物製品工場（重慶）</li> <li>・昆明生物製品工場（昆明）</li> </ul>	<p>3月号6頁に「台湾の情報筋が攻撃的 BW 活動に関与しているとしている中国の施設」の表があり、左記6施設の名が挙げられている。</p>
<p>北京生物製品工場、試験研究所その他瀋陽、上海、蘭州、広州など多数の施設がかって活動していた記録があり、それ等を閉鎖したという報告はなく、軍用、民生の両方に備えた世界最大の生物ワクチン生産国である。</p>	<p>1994年に中国は、12億本のワクチン製造能力を持っていることを主張し、「最大のワクチン生産国」であることを明らかにした。（3月号5頁）</p>
<p>しかし、中国当局は湾岸戦争以降、生物化学兵器をもう時代遅れのものという認識を深め、攻撃的 CBW の使用や開発は行わないとしている。</p>	<p>中国は 1991 年の湾岸戦争以後 CBW を時代遅れの兵器と認識しつつあり、米同時多発テロに端を発するアフガン戦争の態様を見てその認識はさらに強まったことであろう。（3月号20頁）</p>

材料はほぼすべて新宮領氏記事から拝借したもののだが、同じ材料から断定調の結論を導いていることが見て取れると思います。

### 3. 新宮領氏記事の評価

#### 3-1 長所

いくつもの興味深い情報が紹介されています。いくつか「つまみぐい」で挙げると

- ① 新疆で 1980 年代に出血熱流行があり、生物兵器研究施設の事故がその原因と疑われるとのロシア専門家発言があったこと。
  - ② 化学兵器について中国が「敵からの化学兵器攻撃」への対応に腐心してきた（らしい）こと。（米露印の保有化学兵器への警戒心も述べられている）
  - ③ BWC・CWC 査察に対する中国の抵抗姿勢が解説されていること。
- 申立査察で自国の防衛体制が丸裸にされてしまうことを恐れてということらしい。
- しかし上記①のような情報があると、それはただの口実かと疑われてしまうのもやむをえない話です。（不徳の致すところ、というべきでしょうか）

- ④ 「北京軍区軍事医学研究所」という組織の中の「対生物戦部隊」の存在。  
 恥ずかしながら私は最初「軍事医学科学院の間違い」じゃないかと錯覚していました。  
 ところが新宮領氏が参考文献として挙げた Eric Croddy の「China's Role in the  
 Chemical and Biological Disarmament Regimes」(The Nonproliferation Review/Spring  
 2002) を見たら「the Institute of Military Medicine, Beijing Military Region  
 [Shijiazhuang]」という記述があります。(軍事医学科学院なら所在地は北京) 調べて  
 見たら河北省石家荘市にそういう名称の研究所があり、「反生物戦部隊」という名称も  
 新宮領氏記事に登場する Fu Genming という人も見つかりました。「秘密の地点」と新  
 宮領氏は書いていますが、細かい住所は河北省石家庄市西環南路 4 号。Fu 氏は漢字で  
 は傅根銘と書くらいしい)



しかもこの傅先生、生物兵器に関連性あるブルセラ菌という細菌の論文もお書きになっ  
 ています。「硝酸稀土刺激布魯氏菌快速生長的研究」…『中国地方病学雑誌』1992 年 11  
 卷 1 期)

上記材料から見ると中国に頗る怪しい感じがするのはやむをえないところですね。  
 もっとも公平を期すため、異なる見方もあることをちょっとだけ紹介しておきます。

・②について

2015 年の AFP 情報によると米露は化学兵器の保有量が多過ぎて、依然廃棄未完。  
 インドは完了したとか。(http://www.afpbb.com/articles/-/3050188)

中国が警戒していたのも理由がないことではなかったようです。

・③について

防衛省田中極子女史によると、中印は「(CWC の) チャレンジ査察は他のあらゆる

手段によって解決されなかった場合にのみ要請すべき最終手段」と消極的態度を示したそうです。(『外務省調査月報』2008年/No.3) 申立査察反対とはいいいながら中国も一応承諾はしていたということ。また抵抗したのが中国だけではなかったわけでもあります。(http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/pub/geppo/pdfs/08\_3\_1.pdf)

またBWCに(査察を含む)検証システムを設ける議論が2001年に挫折したのは、中国の抵抗だけでなく、米ブッシュ政権の反対が大きく作用した旨を2002年に新井勉氏(当時日本国際問題研究所)が述べたのを見たことがあります。

(https://www2.jiia.or.jp/pdf/us\_terror/2-3arai.pdf)

こうして見ると一応中国側の言い分も多少の道理はありそうです。もっとも私たちはあの国が、自分が不利な間は覇権反対と称して黙々と軍拡に励み、自信がついた途端に大国外交を気取る様子を見てきています。(これが「養光韜晦」なのですかね) そう簡単に「身の潔白」を信ずる気持ちにはなれないのも仕方ないでしょう。

### 3-2 短所

新宮領氏記事の問題点一言で申せば「中国に詳しくない人の手による翻訳文学」ということです。3つほど具体例を示します。

#### ① なぜ中文資料を参照しないのか

末尾に掲げる参考文献には中国国務院の『2002年の中国の国防』がありますが、実はこれには訳本があります。(http://www.bjreview.cn/JJ/JP/2002-51/wx51-1.htm)

訳本ぐらい見てもかまわないのですが、**具体的事例の記述が前記 Eric Croddy に頼り切り**というのはどんなものでしょうね？

たとえば次の記述

Li Guang と Xie Deming は、中国の Journal of Chemical Defence の中で、「我々の実績ある核戦力を背景にすれば、いかなる敵も、あえて軽々に核兵器や化学兵器を使用することを考えないだろう」とした後、CW を使用する敵への一般的な対応方針について次のように述べている：

「敵の CW 能力を破壊し、あるいは低下させる最善の方法は、敵の攻撃計画の実行を不可能にすることである——これは、我々の生存を確実にするための、攻撃的防御である。戦場で敵の化学兵器の配置を確認したら、各々のコマンドレベル士官は、組織化された砲兵、航空戦力、その他の戦力を用い、速やかにかつ決定的にそれらを破壊するものとする」。 (『ジャーナル』3頁)

なぜ『Journal of Chemical Defence』を中文名で表記しないのでしょうか？ 中国語で書かれた原文を読んでいるなら『防化学報』と書けばよいのに。

実は上記の囲み記事の出所は、雑誌掲載原文ではなく、Eric Croddy の次の英文記事からの孫引きだったのです。

For example, Li Guang and Xie Deming write in the Chinese Journal of Chemical Defence that, “[w]ith our tried and true nuclear force in the background, no enemy would dare think lightly of using nuclear or chemical weapons[geinst us]. The response to an enemy that would use CW, according to Chinese CW defense strategies, would generally run along these lines:

The best way is to destroy the enemy’s CW capability or at least degrade it, causing the other side to be unable to carry out their offensive plan – this is an aggressive defense to ensure one’s survival. On the battlefield, after ascertaining the placement of enemy chemical weapons, including fire lines, command and control systems, and ordnance depots, every command level officer is to quickly and decisively destroy them by use of organized artillery, air power, and other assets. (23 頁)

新宮領氏は別の箇所で香港『明報』記事も紹介していますが、この分だとどうせ原文に目なんぞ通してはいないでしょう。

## ② Balian Institute of Chemical Physics とは何者か

新宮領氏記事 6 頁に「北京化学冶金研究所と Balian Institute of Chemical Physics は、醗酵器を作ることができる」という CIA 情報の記述があります。

「Balian…」とは聞いたことのない名前だったのでネット検索したら次の 2 データが出てきました。

The screenshot shows a Google search for "balian institute of chemical physics". The search results are as follows:

- Result 1 (labeled 'ア'): **WaterSite** (with Norton and iTR logos). URL: [www.waters.com/webassets/other/corp/ba/data/data.xml](http://www.waters.com/webassets/other/corp/ba/data/data.xml). Description: Researcher, Balian Institute of Chemical Physics Chinese Academy of Sciences Xinmiao Liang, Ph.D. Researcher, Balian Institute of Chemical Physics, Chinese.
- Result 2 (labeled 'イ'): **[PDF] China's Role in the Chemical and Biological Disarmament Regimes** (with Norton logo). URL: <https://www.nonproliferation.org/wp-content/uploads/npr/91crodd.pdf>. Description: 2002 - Cited by 9 - Related articles (freeze-driers), and the Beijing Institute of Chemical Metallurgy and the Balian Institute of Chemical Physics may manufacture fermenters.118. Assuming that ...

このうち<イ>は本稿でも度々触れている Eric Croddy です。ははあ、これもそこから借りてきたのか。

では<ア>は？ 「中国科学院の Balian Inst of Chemical Physics」なんて聞いたことな

いぞ。「Dalian」の化学物理研究所ならよく知っているけれど。と思って調べたらアタリでした。「Xinmiao Liang Ph. D. Researcher」とは大連(Dalian)化学物理研究所の梁鑫森博士のことだったのです。

とすればどうやら<イ>も同じことがあったのではないか。それ(CIA・CroddyのどちらかがBalianと間違えた。アメリカ人じゃ漢字を読めないのも仕方ないですね)を、新宮領氏「ちょっとヘンだな」と思いながら(だから北京化学冶金研究所は漢字表記したが、Balianは横文字のままに)書き写したのでしょうか。

では「ヘンだ」と気づいたのを偉いと思いますか？ 私の意見はノーです。

もし新宮領氏が翻訳家であったなら、ファインプレーだったかもしれません。しかしこれは「翻訳家としての仕事」ではありませんでした。彼は「中国のCBWについて、その能力、CBW軍備管理への取り組みについて、可能な限り明らかにすることとする」と称して『ジャーナル』に寄稿したのです。従って「Balianの醗酵器」なる存在を確認できていないのであれば、(自身が語り手をつとめる)記事にはならなかったのです。

なお、私がネット検索した範囲では大連化学物理研究所が醗酵器(中国語では「醗酵罐」)を製造していたという記事は見つかりませんでした。(2003年当時は製造していたのかもかもしれませんが)

ついでに「北京化学冶金研究所」について調べてみました。

現存する最も似た名前の組織は「核工業部北京化工冶金研究院」(Beijing Research Institute of Chemical Engineering and Metallurgy)ですが、私はそこではないと睨んでいます。おなじみCroddyの英文表記「Beijing Institute of Chemical Metallurgy」とは言葉的に若干の差がありますから。

ではどこが「正解」かといえば「中国科学院過程工程研究所」ではないでしょうか？ ここは2001年3月まで「中国科学院化工冶金研究所」(英文名はBeijing Institute of Chemical Metallurgy)と呼ばれていました。

(「中国科学院过程工程研究所前身是 1958 年成立的中国科学院化工冶金研究所」…  
<http://www.ipe.cas.cn/gkjj/jgjj/>、

「2001年4月7日, 经中央编制委员会批准, 本所正式更名为中国科学院过程工程研究所, 标志着本所的学科方向由“化工冶金”发展为“过程工程”」…  
[http://www.ipe.cas.cn/gkjj/lsyg/200907/t20090702\\_1909195.html](http://www.ipe.cas.cn/gkjj/lsyg/200907/t20090702_1909195.html))

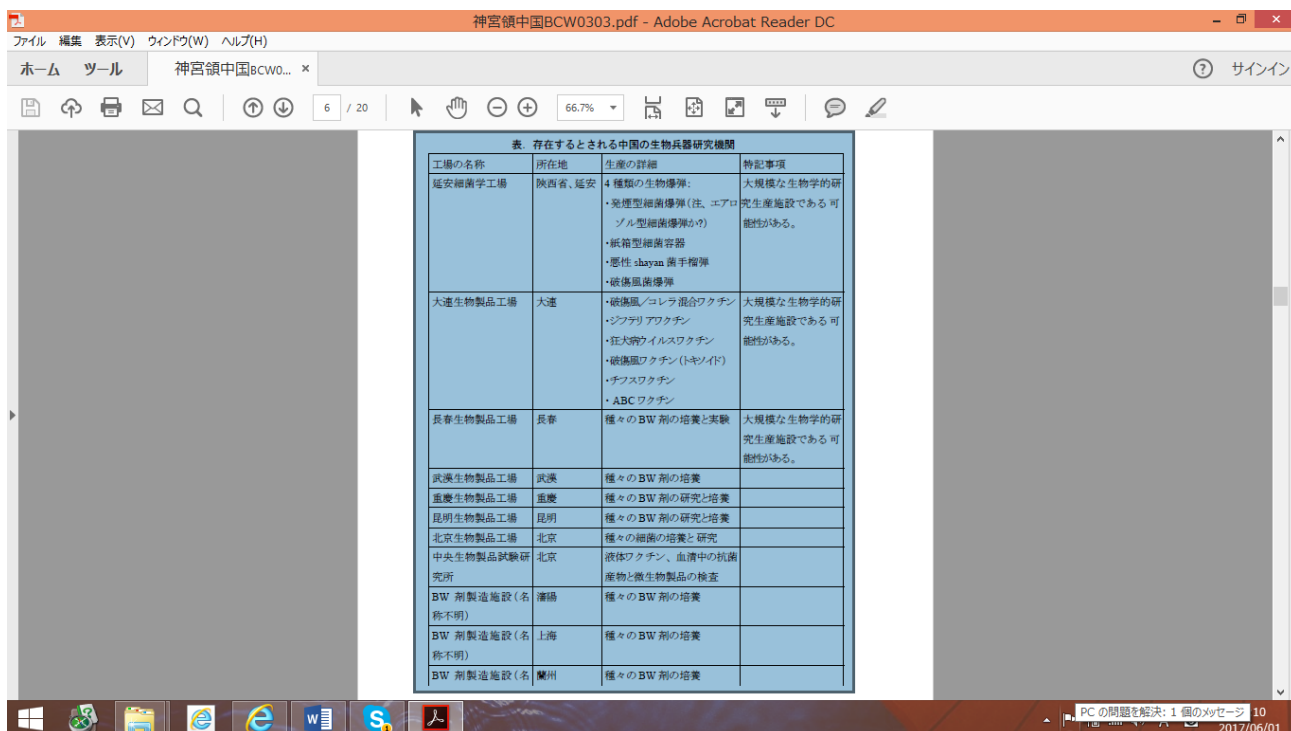
そしてその内部の「生物工程国家重点實驗室」が「发明和研制了系列高浓度生物反应器、固态发酵生物反应器」(一連の高濃度生物反応器、固体醗酵生物反応器を發明開発した)という記事が見つかりました。( <http://www.sk1bce.cn/intro.jhtml> )

「過程工程研究所」は、Croddyが情報源として挙げた1997年の「Iran Brief」においては「化工冶金研究所」と呼ばれていたわけで、新宮領氏はおそらくこれをパクったのでしょうか。記事が『ジャーナル』に載った2003年、既にその名称は過去のものになっていた

のですが。

③ 生物兵器研究機関一覧表の「品質」

サブラヒ氏の主張に直結する唯一の具体的情報源ですが、信頼度はどうでしょうか？



新宮領氏は「台湾の情報筋が攻撃的 BW 活動に関与しているとしている中国の施設」として紹介していますが、私は一目見て奇異に感じました。

【理由 1】 「工場」などという名称の中国施設はない

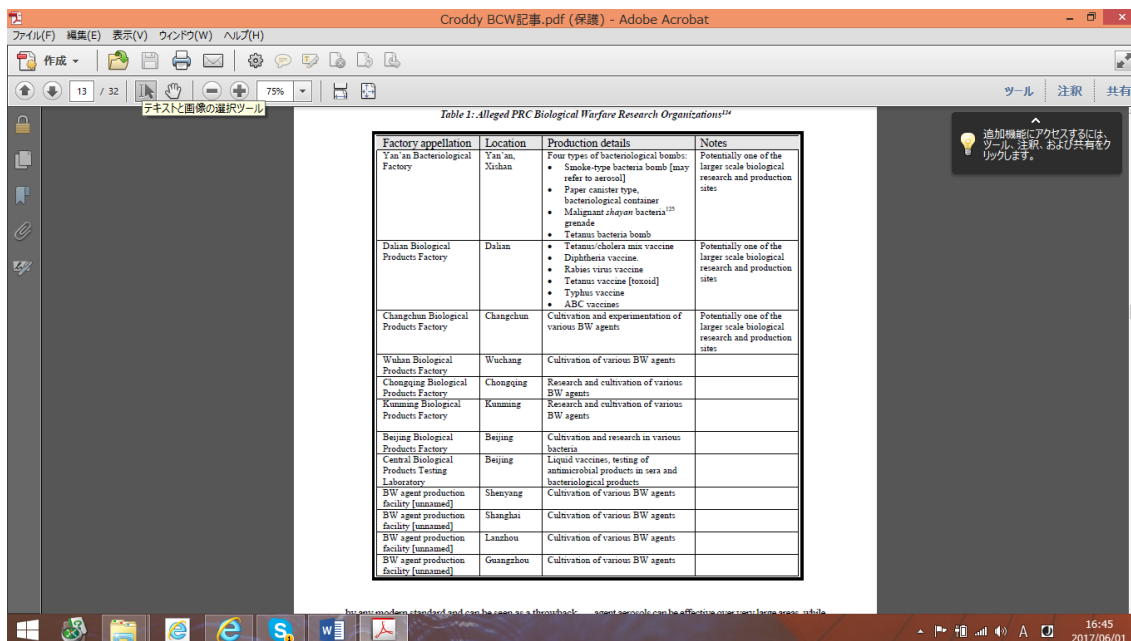
表中の「工場名称」はどれも見覚えがないものですが、それ以前の問題として、中国人は工場にこんな名前をつけません。「工場」ではなく「廠」と呼ぶのです。

データの真贋は別としても、台湾人がこんな中文資料を渡す筈がない。彼の手には渡ったのは欧米経由で英文版だったのだろう、と考えざるをえないわけです。

しかしそれはきわめて不自然な流れだと思いませんか？

【理由 2】 実は Croddy の丸コピーだった

Croddy をあらためて見たら 27 頁に「A Taiwanese source claims that the institutes in the PRC as listed in Table1, are involved in offensive BW activity, although the accuracy of the information is difficult to assess.」という記事があり、次の頁に表が掲載されておりました。



なるほどこの表は「台湾の情報筋が怪しいと言った、と Croddy が言った」ものの受け売りだったのか。新宮領氏もそれならそうと書いておけばよいのに。

#### ④ おまけ…小さな誤り 2 点

##### 【その 1】 Ken Alibek の経歴

4 頁に「ソ連及びロシアの Biopreparat BW 総合施設の初代副所長であった Ken Alibek」という人が登場します。

Wikipedia を見ると、たしかに Alibek 氏は Biopreparat という組織の副所長をつとめたようですが「初代」ではないはず。なぜならこの組織の設立は 1973 年。そのとき Alibek はまだ 23 歳の若造でしたから。「He was later promoted (1988) to **First Deputy Director** of Biopreparat」(Wikipedia) の誤訳（正解は「筆頭副所長」ではないか）と思います。意味を考えずに逐語訳するようになります。

##### 【その 2】 新疆省という地名

同じく 4 頁に登場する表現です。清代や中華民国時代の呼称を使ってはまずいでしょう。もっともこの間違いの元ははっきりしています。お察しの通り Croddy が「Xinjiang Province」と表記している (26 頁) のを丸写しした結果です。

以上の考察から言えることは、新宮領氏が手ごろな英文資料をただ翻訳したのであるということです。

こういう人の書いたものを「論文」「論考」とは呼べないと思います。それで本稿では「紹介記事」と表現した次第です。



#### 4. サブラヒ氏記事の評価

サブラヒ氏のタネ本（材料）である新宮領氏の評価は以上の通りです。次はサブラヒ氏自身の包丁さばきを見てみましょう。

##### 4-1 粗雑な論理展開

再度サブラヒ氏記事の前半部分を見てみましょう。

サブラヒ氏	米満意見
<p>生物兵器、化学兵器は、核兵器やミサイル関係と並んで大量破壊兵器安全保障輸出規制の双璧をなす厳しい管理対象である。国際レジームとしてはオーストラリア・グループが真剣に取り組んでいるところであるが、中国やロシアは大国でありながらその国際的な規制の枠組みへの参加を避けている。（査察を拒否）</p>	<p>彼は中国の AG 不参加を非難しているがそれは「中国が BW（生物兵器）を製造している」という主張とつながらない。</p> <p>① AG に参加（BW や関連機材を輸出管理）してもそれは自国用の開発製造を慎むことを意味しない。</p> <p>②AG には（前述の通り）査察がない。</p> <p>③中国は疑似 AG 型輸出管理をしている。</p>
<p>中国にある生物兵器研究機関：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・延安細菌学工場（陝西省 延安） エアロゾル型細菌爆弾など 4 種類</li> <li>・大連生物製品工場（大連） 破傷風、コレラワクチン、狂犬病ウィルスなど</li> <li>・長春生物製品工場（長春） 種々の生物兵器材料の培養など</li> <li>・武漢生物製品工場（武漢）</li> <li>・重慶生物製品工場（重慶）</li> <li>・昆明生物製品工場（昆明）</li> </ul>	<p>要するに、次の 2 点でアヤシイという主張である。</p> <p>① 生物兵器研究機関に関する左記の疑惑情報があり、</p> <p>② それらの施設が閉鎖されたという報告もない</p> <p>しかしタネ本である新宮領氏記事の信頼度がかくも下がってしまったのは、サブラヒ氏の主張も相当に割り引いて読む必要がある。またそれらの施設が「かつて活動していた記録」が疑わしい以上、「閉鎖したという報告」も「なくて当然」であろう。</p>
<p>北京生物製品工場、試験研究所その他瀋陽、上海、蘭州、広州など多数の施設がかつて活動していた記録があり、それ等を閉鎖したという報告はなく、軍用、民生の両方に備えた世界最大の生物ワクチン生産国である。</p>	<p>「世界最大のワクチン生産国」であることは中国自身が認めていることで、何ももったいつけて結論するほどの話でもない。</p>

むしろサブラヒ氏の認識の基礎は次の 2 つの命題とされます。

α 「ワクチン生産国」 = 「BW 生産国」

β BW 開発で軍用・民用の垣根は低い

それゆえに新宮領氏のいう「中国は世界最大のワクチン生産国」から、「中国は世界最大の BCW 生産国」へとサブラヒ氏は「飛躍」したのでしょう。（ところで化学兵器=CW について「中国が世界最大の生産国」とするネタは、新宮領氏記事にもありません。「飛躍」するときにサブラヒ氏は「化学」の 2 文字を消し忘れたのでしょう。長い記事のせいで読み疲

れたのでしょうか。) しかし命題αは乱暴すぎませんか？ それでは日本もアメリカもBW生産国になってしまいます。「いや中国は新疆出血熱事件(3節参照)のような前科があるから特別(クロと断定してかまわぬ)」といたいのでしょうか？ ただそれを言い出すと「あの国もこの国も」ということになってしまいます。例えばコロラド州立大学の杜祖健博士は、インド・中国・アメリカが外部からのBW攻撃に備えるためにBW研究を行っており、それはBWCに「予防や防御または平和的目的の為に毒の研究や生産に従事しているという『除外の項』がある」からで「アメリカはBWからの防御法研究では世界最大」とも述べています。(http://www.iomf.or.jp/report/kaigai/29/03.html)

#### 4-2 何を見抜けるというのか

サブラヒ氏の主張後半を見てみましょう。

ライフサイエンスにおけるテクノロジーは発展が著しい。軍事利用と平和利用を区別することは、基本的には不可能である。しかし、我々はそれを明確に識別することを求められている。そのためには、この技術分野で民生製品事業の経験を積んだ専門家による該非判定が能力が非常に役に立つことになる。たとえ、純粹技術的には識別不可能な貨物であっても、それがどのような製品分野においてどのように使われているかを熟知している者は、用途要件、需要要件の審査により、その輸出案件が偽装であるのか否かを見抜くことが出来るからである。

① クロスフロー型フィルター    ② 発酵槽    ③ ガラスライニング容器  
 ④ 凍結乾燥機    ⑤ 遠心分離機    ⑥ 噴霧器    ⑦ 封じ込めに用いられる装置

サブラヒ氏とそのお仲間(文中の「我々」)は、その品目が「どのように使われているかを熟知している」から民生用を装った軍用商談を見抜くことができるとおっしゃっています。

これまでの議論の流れに即して言うと「表の顔は平和な組織」であっても「実はお前はこっそりワクチンやっているだろう！」と「我々は見抜くことができるんだ」ということです。

みなさんはもう「見抜いていらっしゃる」かと思いますが、これは論理的におかしい。なぜならサブラヒ氏は「表の顔がワクチン生産」イコール「実はBWやっている」と主張する一方で、「中国はそういう奴…“表の顔がワクチン生産…が多いんじゃないの」ともおっしゃっているからです。「裏の顔がワクチン屋」という企業があるのだろうか？

私も「実はワクチンやっているのを隠してました」なんて問題児企業はいないと思います。従って「裏稼業でワクチンやっているのを見抜ける」と自慢しても失笑を買うだけのこと。わざわざそういう奴をあばき出すためにサブラヒ氏に御出馬いただく必要はないのです。

もしかしたらサブラヒ氏が言いたいのは、ワクチン生産企業の活動のうち「有害な用途」と「無害な用途」の案件を見分けることができるぞ、ということかもしれません。

しかしこれもナンセンスです。なぜなら先方が「有害活動・無害活動の両刀遣い」だった場合、たとえ今回の引き合いが「有害な用途」であっても、「無害な用途」のときの情報を日本側へ告げることができるわけですから。やっぱり彼の出番はない、と言ってよいでしょう。

#### 4-3 そもそも「表の顔がワクチン生産」の企業を知っているのか？

新宮領氏・サブラヒ氏に共通しているのは、中国現地の情報への言及がほとんどゼロだということです。

「表の顔がワクチン生産」の企業が問題なのでしょう？ では主要なワクチンメーカーはどこどこなのですか？ 彼らにはそこに関心がないように思えてなりません。

下表は<前掲網>というサイト…<http://www.qianzhan.com/guide/detail/250/140829-b3bc3515.html> によるワクチン企業ベストテン<2014年中国十大人用疫苗企业排名>です。

企業名	参考情報
1 中国生物技术集团公司 China National Biotec Group Co Ltd	<a href="http://www.cnbg.com.cn/">http://www.cnbg.com.cn/</a> 構成企業は 北京生物製品研究所 北京天壇生物製品股份有限公司 (#3) 上海生物製品研究所 蘭州生物製品研究所*1 武漢生物製品研究所*2 成都生物製品研究所*3 長春生物製品研究所 成都蓉生薬業有限責任公司*4 長春祈健生物製品有限責任公司
2 华兰生物工程股份有限公司*3 Hualan Biological Engineering Inc	<a href="http://www.hualanbio.com/">http://www.hualanbio.com/</a> 所在地；河南省新郷市
3 北京天坛生物制品股份有限公司 Beijing Tiantan Biological Products Co.Ltd.	<a href="http://www.tiantanbio.com/">http://www.tiantanbio.com/</a> ※ #1 の傘下企業
4 重庆智飞生物制品股份有限公司 ChongQing ZhiFei Biological Products Co., Ltd	<a href="http://www.zhifeishengwu.com/">http://www.zhifeishengwu.com/</a> 所在地；重慶市
5 北京科兴生物制品有限公司 Sinovac Biotech Ltd.	<a href="http://www.sinovac.com.cn/">http://www.sinovac.com.cn/</a>
6 云南沃森生物技术股份有限公司 Walvax Biotechnology Co., Ltd.	<a href="http://www.walvax.com/">http://www.walvax.com/</a> 所在地；雲南省昆明市
7 辽宁成大生物股份有限公司 Liaoning Chengda Co.,Ltd.	<a href="http://www.chengda.com.cn/about8.asp">http://www.chengda.com.cn/about8.asp</a> 所在地；遼寧省大連市
8 深圳市海王英特龙生物技术股份有限公司 Shenzhen Neptunus Interlong Bio-Tech Co., Ltd.	<a href="http://www.interlong.com/Cn/">http://www.interlong.com/Cn/</a> 所在地；広東省深圳市

9 北京诺华制药有限公司 Novartis China	<a href="https://www.novartis.com.cn/">https://www.novartis.com.cn/</a>
10 上海联合赛尔生物工程有限公司 Shanghai United Cell Biotechnology Co.,Ltd.	<a href="http://www.unitedbiotech.com.cn/aboutus/">http://www.unitedbiotech.com.cn/aboutus/</a>

- \* 1 蘭州生物製品研究所は、2010年5月26日～2016年1月21日の間、経済産業省の外国ユーザーリストに掲載されていました。といっても、私が調べた範囲では特段の懸念情報はありませんでした。（もしかして炭疽病用血清を扱っていることが怪しまれたのかもしれませんが。<http://yao.xywy.com/goods/174270.htm>）逆に2008年にイタリア Biosynth Research Lab 社と技術提携を結んだ記事が見つかりました。  
([http://www.gsstc.gov.cn/News\\_Notice/detail.php?n\\_no=46781](http://www.gsstc.gov.cn/News_Notice/detail.php?n_no=46781))  
「何があって懸念を持たれたのだろうか？」と思っていたら、2016年1月22日にリストから削除されました。
- \* 2 武漢生物製品研究所がアメリカ PATH（適切な保健技術のためのプログラム）との間で、痢病ワクチン開発の提携関係を結んだ旨の報道が2007年に発表されています。  
(<http://www.path.org/news/press-room/547/>)
- \* 3 成都生物製品研究所及び華蘭生物工程股份有限公司のワクチンが WHO の事前認証を取得した旨が今年5月22日に報道されています。少なくとも「堅気の衛生製品企業」と言う認知は国際的になされているということかと思えます。  
(<http://www.xue63.com/jiaoyuershi/2016-4/14615741157490.html>)
- \* 4 成都蓉生薬業有限責任会社は、2011年9月1日～2016年1月21日の間、経済産業省の外国ユーザーリストに掲載されていました。この企業も私には特段の懸念情報が見つからず、またドイツから Groninger 社や Bosch 社の設備を導入していることから「ドイツでは問題児扱いされていないのだな（日本では何が引っかかっているのだろうか）」と思っていました。( <http://www.ronsen.com/list.asp?menu=4&submenu=9> )  
上記蘭州生物製品研究所とともに2016年1月22日にリストから削除されました。

私の知っている範囲では、これらの企業に特段の悪い情報はないように思えます。実際の商談で何が出てくるかはそのときにならないとわかりませんから、是々非々で臨まねばなりません。

サブラヒ氏は「中国のワクチンメーカーなんてさあ、ああいう国だけにどれも中身は真っ黒だろ」と決め打ちしているように感じられます。それは「中国製品なんて所詮安かろう悪かろうだろ」と決めつけるのとそっくりに思えます。かつて日本製品について同じことを唱えていた白人さんたちを思い起こさせます。

(2017.7.25)

<附録> サブラヒ氏ネット記事

[TOPへ](#)

…<http://sensinjuku.blogdehp.ne.jp/article/13731186.html>

2010年06月19日

生物化学兵器の最大生産国は中国



生物兵器、化学兵器は、核兵器やミサイル関係と並んで大量破壊兵器安全保障輸出規制の双壁をなす厳しい管理対象である。国際レジームとしてはオーストラリア・グループが真剣に取り組んでいるところであるが、中国やロシアは大国でありながらその国際的な規制の枠組みへの参加を避けている。(査察を拒否)

中国にある生物兵器研究機関：

- 延安細菌学工場(陝西省 延安) エアロゾル型細菌爆弾など4種類)
- 大連生物製品工場(大連) 破傷風、コレラワクチン、狂犬病ウィルスなど
- 長春生物製品工場(長春) 種々の生物兵器材料の培養など
- 武漢生物製品工場(武漢)
- 重慶生物製品工場(重慶)
- 昆明生物製品工場(昆明)

北京生物製品工場、試験研究所その他瀋陽、上海、蘭州、広州など多数の施設がかって活動していた記録があり、それ等を閉鎖したという報告はなく、軍用、民生の両方に備えた世界最大の生物ワクチン生産国である。

しかし、中国当局は湾岸戦争以降、生物化学兵器をもう時代遅れのものという認識を深め、攻撃的CBWの使用や開発は行わないとしている。

ライフサイエンスにおけるテクノロジーは発展が著しい。軍事利用と平和利用を区別することは、基本的には不可能である。しかし、我々はそれを明確に識別することを求められている。そのためには、この技術分野で民生製品事業の経験を積んだ専門家による該非判定が能力が非常に役に立つことになる。たとえ、純粋技術的には識別不可能な貨物であっても、それがどのような製品分野においてどのように使われているかを熟知している者は、用途要件、需要要件の審査により、その輸出案件が偽装であるのか否かを見抜くことが出来るからである。

- ① クロスフロー型フィルター ② 発酵槽 ③ ガラスライニング容器 ④ 凍結乾燥機 ⑤ 遠心分離機 ⑥ 噴霧器 ⑦ 封じ込めに用いられる装置

<附録> サブラヒ氏ネット記事（つづき）

この記事へのコメント

---

大変興味深い情報と思います。  
同時に「なぜ今まで耳に入らなかったのだろう」と自分の不勉強を反省しました。  
後学のため、情報源をお教えいただければ幸いです。  
Posted by 米満啓 at 2016年03月05日 19:03

前回、情報源をお尋ねした背景を補足します。  
私も中国貿易経験が少しありますが「延安細菌学工場」「大連生物製品工場」というような組織名を聞いたことがないのです。  
中国の企業名の付け方からいってもそれらは「あまりありそうにない」感じがしています。  
そこで欧文資料が出所かと考えたのですが実際はいかがでしょうか？

Posted by 米満啓 at 2016年03月22日 17:31

中国がオーストラリアグループ（AG）規制の枠組み参加を避け、その査察を拒否しているという主張には疑問があります。

- 1 AGは査察を行う機関ではありません。なぜならそのターゲットは、生物化学兵器関連物資の輸出入であり、それらの兵器の開発・製造行為は直接の対象にしていけないからです。核分野の査察にしても、実施しているのはNSGではなく国連機関であるIAEAです。
- 2 化学兵器分野でIAEAに相当するのは化学兵器禁止機関（OPCW）です。中国はOPCWに参加しており、軍事医学科学院毒物薬物研究所と防化研究院が試験機関に指定されています。
- 3 生物兵器分野でOPCWに相当する国連機関はありません。そもそも査察を行う主体が存在しないということです。

Posted by 米満啓 at 2016年04月05日 07:47

米満啓 様  
色々コメントを頂き有難うございます。ご回答が遅れ申し訳ございません。実は大分前の記事であったもので、情報源が何であったのか忘れてしまい、古い資料をひっくり返していたためです。本来このような記事には、出典を明らかにしなければいけませんね。この記事の出どころは、CISTECジャーナル2003.3の新宮領様の「中国と化学・生物兵器」というタイトルのレポートです。  
Posted by 中村サブラヒ at 2016年04月25日 04:48